

教科	保健体育	科目	体育			単位数	3
学科	工業科	履修学年	1	コース		必修・選択	必修
教科書	「現代高等保健体育」 大修館						
副教材等							

学習目標	<p>(1)運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を育てる。</p>
指導の重点	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び、自ら考える力を育てる。 ・安全、協力、公正、責任の態度を育てる。 ・基礎体力の向上、体調の管理、仲間との関わりについて深く考えさせ、育てる。

学 習 計 画	学期 (時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	評価方法
	1 学期 (30)	<p>オリエンテーション 集団行動(1)</p> <p>体づくり運動 男子(3) 女子(4)</p> <p>体育理論(2)</p> <p>陸上競技 50m走男子(2) 女子(4)</p> <p>長距離走(8) 男子 3000m走 女子 2000m走</p> <p>女子 ハードル(7)</p> <p>体力テスト(4)</p> <p>男子 柔道(1単位)(10)</p>	<p>今年度の年間計画を説明する。 授業に臨むにあたっての心構え。 集合・解散・整列・列の増減・点呼。</p> <p>(1)健康に生活するための体力の向上を図る運動の計画と実践 (2)運動を行うための体力の向上を図る運動の計画と実践</p> <p>(1)人間にとって「動く」とは何か (2)スポーツの始まりと変遷</p> <p>速く走るための技術とその練習法を身につける。</p> <p>正しい走り方を学び、段階かつ継続的に練習をすすめて目標記録を目指す。</p> <p>スムーズなハードリング技術とリズムカルなインターバルの走り方を学ぶ。</p> <p>握力・反復横跳び・上体起こし・長座体前屈・シャトルラン・ハンドボール投げ・立ち幅跳び・50m走</p> <p>武道論・道着の着方・礼法(座礼、立礼)常に基本動作(礼法・受け身・組み方など)を基盤にし、各技の学習では、漸進法を取り入れ、正しい技術を習得できるようにする。</p>	<p>「学びに向かう力・人間性等」の観点をふまえ、総合的に評価</p> <p>定期テスト</p> <p>記録</p> <p>周回数、記録</p> <p>記録</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」を含め、実技試験等による評価</p>

	2 学期 (36)	<p>体づくり運動 男子(2) 女子(3)</p> <p>体育理論(2)</p> <p>男子 サッカー(10) 女子 ソフトボール(15)</p> <p>バレーボール 男子(10) 女子(16)</p> <p>男子 柔道(1単位)(12)</p>	<p>(1)健康に生活するための体力の向上を図る運動の計画と実践 (2)運動を行うための体力の向上を図る運動の計画と実践</p> <p>(1)文化としてのスポーツ (2)オリンピックと国際理解</p> <p>キック・ドリブル・トラップなど、基本技術を身にける。</p> <p>一人一人が個々の技能を正しく身につけてプレーできるようにする。技能の発達段階に応じたゲームを導入する。</p> <p>各技の学習では、漸進法を取り入れ、正しい技術を習得できるようにする。</p>	<p>「学びに向かう力・人間性等」の観点をふまえ、総合的に評価</p> <p>定期テスト</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」を含め、実技試験等による評価</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」を含め、実技試験等による評価</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」を含め、実技試験等による評価</p>
	3 学期 (30)	<p>体づくり運動(2) 女子(3)</p> <p>体育理論(2)</p> <p>バスケットボール 男子(16) 女子(25)</p> <p>男子 柔道(1単位)(10)</p>	<p>(1)健康に生活するための体力の向上を図る運動の計画と実践 (2)運動を行うための体力の向上を図る運動の計画と実践</p> <p>(1)スポーツと経済 (2)ドーピングとスポーツ理論</p> <p>個々の技能を正しく身につけてプレーできるようにする。 パス・ドリブル・シュートなどの基本的な動作を身につける。 個人的な努力はもとより、チームとしての協力心を養う。 技能の発達段階に応じたゲームを導入する。</p> <p>各技の学習では、漸進法を取り入れ、正しい技術を習得できるようにする。</p>	<p>「学びに向かう力・人間性等」の観点をふまえ、総合的に評価</p> <p>定期テスト</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」を含め、実技試験等による評価</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」を含め、実技試験等による評価</p>
計 9 6 時間 (5 5 分 授 業)				
評価規準と 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けようとしている。</p>	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に表現しようとしている。</p>	<p>運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しもうとしている。</p>	
<p>[評価方法]</p> <p>以上の観点を踏まえ、実技テストの成績、授業中の態度・発表、振り返りシートなどから総合的に判断し、達成率が80%以上をA、79～50%をB、50%未満をCと評価する。</p>				